

東都医療大学図書館通信(幕張キャンパス)

この度、幕張キャンパス図書館から図書館通信を発行することとなりました。新着やお勧めの図書、図書館の利用方法などをお伝えしていきます。是非ご一読ください。

内田分館長挨拶

平成30年4月開学の東都医療大学幕張ヒューマンケア学部の幕張分館長を拝命しました小児看護学分野の内田雅代です。委員の堀之内若名准教授、川崎千恵子司書と力を合わせて、図書館に求められる機能・役割としての学習支援や教育・研究活動の支援などを検討し活動していきたいと考えています。まずは、利用される方々が、居心地よくいられ、知識や思考のシャワーを浴びられ、感情を呼び起こされるような場所にできるように努めていきたいと思っています。学生の皆さんも先生方も、ぜひ、図書館にお立ち寄り下さい。皆様からのご意見を伺いながら、本学の事情に応じてではありますが、より良い環境を一緒に創っていきたく願っております。

先生のお勧め図書

成人看護学領域 渡會 丹和子先生

『チャーリー・ブラウンなぜなんだい?ともだちがおもい病気になったとき』
チャールズ・M・シュルツ作/細谷亮太訳/岩崎書店/1991年

チャーリー・ブラウンは、おなじみスヌーピーの飼い主です。チャーリー・ブラウンとスヌーピー、その仲間たちは、楽しい時、悩んだ時、ともに動き回ったり、まったりしながら過ごしています。

紹介する絵本は、アメリカで子どものがん看護をしている看護師さんが、シュルツさんをお願いして書かれたものです。白血病になった女の子を心配する仲間たち、小学生低学年の子どもでも自分の病気を知りがんばる姿が描かれています。44ページの絵本ですが、たくさんの学びのメッセージが含まれています。①子どもに病気をしっかり説明すること、②仲間が病気になった時の子どもたちの不安と気遣い、③姉妹が病気になった時、他の姉妹が抱くいらいら、④がん治療でボディーが変化したことを笑いものにする子どもと応援する仲間たち、⑤絵本の最終ページであっと驚くすてきな絵、見どころ、読みどころ満載です。

美しい絵、すてきな交流、学びとほっとする絵本が渡會からの贈り物として紹介したいと思っています。この本のDVDがありますので、一緒に鑑賞できたらうれしいですね。



先生のお勧め図書

基礎看護学領域 須釜 真由美先生

『看護につなげる形態機能学』菱沼典子著
メヂカルフレンド社／2012年

後期に入り専門科目の学習も増え、看護の学習をしている皆さんにぴったりの図書をお勧めしたいと思います。この図書は人間のからだのしくみについてわかりやすく説明されています。イラストもあり、大事なキーワードや文章にも色がついており、内容も看護の視点で解説されています。看護に必要な形態機能学について確認する時にとっても参考になる一冊だと思います。

看護専門科目のひとつである「ヘルセスアセスメント」では、対象者の状態をアセスメントするために必要な基本的なフィジカルアセスメントを学習していますよね。例えば皆さんが練習している血圧測定については、“血圧は心臓の働きを知る指標”と書かれています。血圧測定で腕を圧迫して減圧していくとなぜ音が聴こえるのか、不思議ですよね。血圧は血液が血管壁にあたる音を聴いています。最高血圧（収縮期血圧）と最低血圧（拡張期血圧）は、どのようなしくみで生じているのか、何を聴取しているのかを紐解いてくれます。血圧測定は、対象者のバイタルサインを確認するためには必須の看護技術です。

看護技術は目的や根拠を明らかにして習得していくことが大事です。この図書のタイトルにあるように、学んだ「身体の構造・機能」をぜひ看護につなげてください。



基礎分野領域 望月 由紀先生

『生物から見た世界』ユクスキュル／クリサート著
日高敏隆・羽田節子訳／岩波書店／2005年

皆さんは他の人が自分と同じ世界を見ていると思いますか？ それとも見えている世界が違ふと感じますか？ この疑問に直接答えることは難しいので、他の生物がどのように世界を知覚しているかについて書かれた本を紹介します。

通常私たちは、世界を客観的な空間と設定して、その中に人間も犬もハエも同じように存在していると考えがちですが、本当にそうでしょうか。例えばスープが入ったお皿が乗っている机と椅子がある部屋を想定して下さい。人間にとって机はモノを置き椅子は座るものですが、犬にとっていつもは乗ると怒られる椅子とスープだけが重要ですし、ハエにとって重要なのはただスープだけで、それ以外は意味を持ちません。このようにある生物にとっての世界は、その生物にとって重要なものだけで構成されます。この本はその世界を「環世界」と呼び、いろいろな事例から説明しています。

原著が出版されたのは1934年なので、中には現代では否定された知識も出てくるかもしれませんが、生物にとって世界はどのように存在しているのか、について知ることは最終的に、自分とは違う他者の世界はどのように存在しているのか、について考えることでもあります。看護の基礎的態度である「他者理解」を深める、とても重要な視点を教えてくれる一冊です。



選書 & 東都クリニック見学ツアーが開催されました

9月21日(金)に紀伊國屋書店での選書および東都クリニックの見学ツアーが開催されました。深谷・幕張キャンパスから併せて15名の学生が参加し、賑やかなツアーとなりました。当日の様子と感想をお伝えします。



大きな書店だったので
様々な本を手にとって
読んで楽しかった

選書する時間が少ないので、
あらかじめ欲しい本を決めて
おくと良いと思いました

学生イチオシ図書



(左)『会話分析でわかる看護師のコミュニケーション技術』(川野雅資 編著/中央法規出版)
(中)『看護学生のためのレポート & 実習記録の書き方』(百瀬千尋 編著/メヂカルフレンド社)
(右)『看護師のための早引き看護用語辞典 聞き言葉・略語・カタカナ語』(飯田恭子 著/ナツメ社)

東都クリニックは
アクセスしやすい
場所にあって便利
だと思いました



普段、本屋や図書館では手に取らないような本を見ることが出来てとても楽しかった



絵本コーナー設置のお知らせ

皆さんは最近、絵本を読むことはありますか？ 幼い頃は読んでいても大きくなると絵本を読む機会は減るかと思います。そこで今回は期間限定で絵本コーナーを設置しました。勉強で疲れた時やひと休みしたい時、ぜひ絵本を手にとってみてください。様々な主人公（スヌーピーや気の強いとらねこ、自分のニセモノを作ろうと思いついた男の子…などなど）がお待ちしています。



『セーターになりたかった毛糸玉』(津田直美 著/ブロンズ新社)

(左から)『みえるとかみえないとか』(伊藤亜紗 そうだん/アリス館)／『このあとどうしちゃう』『りんごかもしれない』『ぼくのニセモノをつくるには』(ブロンズ新社) いずれも、ヨシタケシンスケ 作

『チャーリー・ブラウンなぜなんだい？ともだちがおもい病気になったとき』(チャールズ・M・シュルツ 作,細谷亮太 訳/岩崎書店)

『100万回生きたねこ』(佐野洋子 作・絵/講談社)

(左から)『君のためにできること』『いつでも会える』(いずれも、菊田まりこ 著/学習研究社)／『よるのねこ』(ダーロフ・イプカー 文と絵, 光吉夏弥 訳/大日本図書)

(右から)『星の王子さま』(サン＝テグジュペリ 作, 内藤濯 訳/岩波書店)／『ずーっとずーっとだいすきだよ』(ハンス・ウィルヘルム エとぶん, 久山太市 やく/評論社)

展示されている作品を一部紹介します

『よるのねこ』ダーロフ・イプカー文と絵／光吉夏弥訳

大日本図書／1988年

人間が寝静まった夜、ねこは夜の世界を探検します。それは、ねこにとって楽しい時間の始まりです。

物語に添えられる、闇夜の絵とねこの視線で見る鮮やかな絵の対比も素敵な作品となっています。



『いつでも会える』菊田まりこ著／学習研究社／1998年

イヌのシロと飼い主のミキちゃんのお話。ある日、シロとミキちゃんに悲しい出来事が起こります…。

シンプルな言葉で綴られています、だからこそストレートに心に響きます。



絵本ではありませんが、世界的ベストセラー「星の王子さま」も展示しています。

既に読んだことがある方もまだ読んだことがない方も是非ご一読ください。

なお今回、渡會先生、船場先生に絵本を寄贈いただきこのコーナーを設けることができました。ありがとうございます。